

発達段階	小学校低学年(1年)	教科等	生活科			
タイトル	がっこうをたんけんしよう！(第2次 - もっと調べてみよう！安全編 -)					
実施日						
所要時間	事前準備	15分	25分	35分	60分	授業後
展開		課題設定	話し合い	活動	表現・情報交換	
達成すべき目標	・他学年への連絡 ・保健室・職員室等との 連携の依頼	学校の中で、安全に過ごすための場所について関心をもち	学校の安全を守っている場所やものについて話し合い、2回目の学校探検への意欲を高める	グループで協力して、学校の安全を守っているものや場所について見つけたり聞いたりできる	発見したことをまとめ発表し合って、学校での安全を守るための施設設備や行動について気付くようにする	自分たちがまとめたことを、他の学年の人や保護者に知らせる活動を行う。
生成物		学校探検への意欲と探検の目的の把握	学校での安全を守るものや場所への関心の高まり	学校での安全を守るものや場所の発見	学校での安全を守るための施設設備や行動についての理解	
学習単位		全体	全体	グループ	グループ 全体	
進め方		前時を振り返る。 学校探検をして見つけたものを出し合う。 ・保健室 ・音楽室 ・体育館 ・校長室等	保健室は、どんなところか考える。 「けがをしてしんどい時に行く」 「薬がある」 「保健室の先生がいる」 「ベッドがある」 「学校で安心して過ごせる場所だ」 学校の中にあるみんなの安全を守るものをもっと考える。 「走らない！ってかいたポスター」 「消火器を見た」 「火災報知器もあった」 ・…… もう一度探検することをグループで話し合う。	探検の準備をする。 ・持ち物…探検グッズ(発見カード・学校マップ) ・道順の確認 ・約束の確認 探検に出かける。 ・自分たちでを見つける ・先生、お兄さんやお姉さんにインタビューをする。	探検で発見したことをまとめる。 「保健室をもっと詳しく調べた」 「火災報知器」 「消火栓っていうものを見つけた」 「建物が丈夫になっているって教えてもらった」 「避難訓練っていうのもある」 ・…… まとめたことを発表し合う。	
ツール(準備物)		学校の絵地図		発見カード・学校マップ		
場所	教室	教室	教室 校内	教室		

この学習は、一度学校探検をおこなった後、2次で「もっと調べてみよう」として行うための単元を想定している。

はっけんかあとど

()が()にち 1ねん なまえ()

はっけんしたよ
おしえてもらったよ

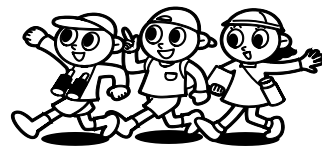
いんたびゅうしたよ

(せつめいをかいてもらってもいいよ)

「がっこうのあんぜんを
まもるものや、あんぜ
んにすごすためのぎょ
うじを、おしえてくださ
い。」

おにいさん
あねえさん
せんせい

(め も)



子どもたちと相談して、インタビューする時のことばを決めて、書き込んでおくと、子どもたちが上手にインタビューすることができます。

この段階では、自分でまとめることができない子どもも多いと考えられます。インタビューした人に書き込んでもらうことも可とすることで、うまく記録を持ち帰ることができます。

絵でも、字でも、自由に書き込める場所とすることで、すべての子どもが活用できます。



発達段階	小学校低学年(2年)	教科等	生活科						
タイトル	とびだせまちへ！(第2次 ぼくらの町の安全点検！ 防災編)								
実施日									
所要時間	事前準備	20分	25分	135分	90分	45分	授業後		
展開		課題設定	活動計画	活動	表現	表現			
達成すべき目標		・校区の防災マップから危険箇所、避難場所等をチェックする。 ・探検場所を下見する。	地域や通学路の安全について関心をもつ	地震が起こったら地域はどうなるか考えることができる	めあてにそった探検ができる	見つけたことを分かりやすくまとめる		見つけたことを発表し合い、防災に対する意識を高める	探検でお世話になった人にお礼の手紙を書く。
生成物		・保護者・地域の自治会等と連絡する。	地域や通学路の安全への関心の高まり	地震を想定した地域の安全点検への意欲	探検による発見を書き込んだカード	探検による発見を書き込んだ地図等		地域の防災に対する理解	手紙を届ける。
学習単位		全体	全体 グループ	グループ	グループ	グループ 全体			
進め方	前時の活動を振り返る。 地域や通学路の安全についてもっと調べたいことを出し合う。 ・避難場所 ・通学路の危険箇所 ・子ども110番の家	地震が起こったら危険な場所や避難できる場所を考える。 ・がけや堤防 ・川や橋 ・住宅密集地 ・公園等の避難場所 探検の計画を立てる。 自分たちのグループが調べたいものを決めて探検経路を考える。	町探検に行く。 ・探検しながら見つけたことを発見カードに書き込んでいく。 ・地域の人にインタビューしてわかったこともメモする。	探検で見つけたことをまとめる。 ・探検して見つけたことをみんなが見やすいようにまとめる。	各グループがまとめたことを発表する。 ・あぶない所は... ・こうしたら安全に... 各グループの発表を聞いて、感想を出し合う。 ・はじめて知った所... ・家の人にも...				
ツール(準備物)	校区の絵地図(防災マップ)								
場所	教室		地域	教室					

この学習は、一度町探検をおこなった後、2次で「もっと調べてみよう」として行うための単元を想定している。

発達段階	小学校低学年	教科等	特別活動			
タイトル	地震から自分の命を守ろう(安全に避難しよう)					
実施日(月日)						
所要時間	5分	10分	5分	10分	10分	5分
展開	導入	展開				まとめ
達成すべき目標	地震の恐ろしさを知る	教室で起こる被害について考える	屋内で地震が起こったときの行動について考える	安全に避難する方法を考える	安全に避難する	地震が起こったときの基本的行動について理解する
生成物	地震に対する関心の向上	屋内での地震被害に対する関心の向上	屋内での発災時の行動に対する理解	安全な避難方法についての理解	実践的な避難体験の共有	発災時の安全な避難方法の再確認
学習単位	全体					
進め方	地震災害の様子について話し合う。	教室にいるときに地震が起きたら、どんな被害が起こるか話し合う。 ・窓ガラスが割れる ・蛍光灯が落ちる ・花瓶が倒れる 等	教室で地震が起きたら、どんな行動をすればよいか話し合う。 ・机の下にもぐる ・頭部を守る ・指示を守る 等	教室からどうやって避難すればよいか話し合う。 ・避難経路の確認 ・煙を吸い込まない ・頭部を守る ・指示を守る ・「おかしも」の確認 等	煙が充満していることを想定し、低くかがむなどしながら避難の練習をする。	避難の練習を振り返り、よかった点、悪かった点等について話し合い、どんな行動をしていけばよいか考える。 今日の経験を校内避難訓練に生かすようにする。
ツール(準備物)	・地震で被害にあった児童の作文、写真・ビデオ教材等を効果的に活用する。				・より実践的なものにするために、場の設定を工夫(廊下に床から50cmの高さにビニールテープを張り、煙の高さを意識するなど)する。	
場所	教室	教室	教室	教室	教室～避難場所	避難場所

発達段階	小学校低学年	教科等	特別活動				
タイトル	だいじないのちをまもろう						
実施日(月日)							
所要時間	10分	5分	5分	5分	5分	10分	5分
展開	導入	展開					まとめ
達成すべき目標	話の内容を理解する	上から物が落ちてきた時どうすればいいか考える	お母さんは、なぜ靴を用意したのか考える	地震が起こったら他にどんなことが起こるか考える	安全な場所を確認する	いろいろな家族の場合を考える	互いに助け合うことの大切さを知る
生成物	地震に対する関心の向上	頭上への意識	より安全に避難する方法の理解	様々な状況に対する認識	避難場所の理解	高齢者や赤ちゃん、妊産婦の避難方法の理解	自分にできることを考えようとする力
学習単位	全体						
進め方	紙芝居を見る。家で地震が起こった時のことを考えながら聞く。	体・頭を守る方法を知る。(ずきん、布団、テーブルの下など)	避難する時に必要な物を知る。	停電や火事、断水が起こることを知る。	地域によって避難する場所が違うこと、どこに避難すればよいか知る。	地域には様々な人が住んでいることに気付く。	みんなで助け合うことの大切さに気付く。
ツール(準備物)	紙芝居(出典 教育画劇 制作 高木あき子作)「まっくらぐらぐら」						
場所	教室						

発達段階	小学校中学年(3年)		教科等	社会		
タイトル	自分の校区を知ろう - 校区の特徴を考えよう -					
実施日(月日)						
所要時間	3時間	6時間	4時間	7時間	3時間	
展開	課題発見	調査	表現	思考	まとめ	
達成すべき目標	自分の通学路について、その特徴が分かるように紹介することができる	担当地域の特徴に気を付けながら、校区探検をすることができる	探検したことをもとに、校区地図の作成に意欲的に取り組むことができる	自分たちの住んでいる町の特徴ある地形の様子や主な公共施設、交通の様子などを調べ、町の様子は自然条件や社会的条件によって違うことをとらえることができる	最も伝えたい町の特徴を自分なりに工夫して表すことができる	
生成物	通学路の場所による様子の違いに対する理解	活動への意欲 各地域ごとの様子への気付き	校区地図 校区への関心	調査活動への意欲 自然条件や社会的条件と町の様子を関連付けた思考	自分の町の理解と愛着	
学習単位	全体	小グループ	全体	全体	全体	
進め方	・通学路の様子を紹介し合う。 ・白地図に通学路を書いてみる。 ・書いた通学路をつなげてみる。	・まちたんけんの計画を立てる。 ・方位ごとにグループを作り、探検に出かける。 (* 教員の指導体制や保護者の協力体制など安全対策には気を付ける。)	・調べた結果を絵地図に表す。 ・絵地図では記号が揃わないため、地図記号を使うと便利であることに気付き、地図記号を使った地図に作り替える。	・学習の見通しをもつ。 ・観察、調査、資料収集などによって、見出した問題を具体的に調べる。 ・調べた結果を整理し、自分なりの方法で表現する。 ・町の様子は、場所によって自然条件や社会的条件で違っていていることを考える。	・自分の学校の校区を紹介するポスターを作る。 ・できたポスターを見せ合い、よさを認め合う。	
ツール(準備物)	校区地図(白地図)	たんけんマップ たんけん隊員証	校区地図(白地図)	シール		
場所	教室・校外					

発達段階	小学校中学年(3年)	教科等	社会	
タイトル	自分の校区を知ろう - 校区の特徴を考えよう - 【20 / 23】			
実施日(月日)				
所要時間	5分	25分	10分	10分
展開	導入	考える	考える	表す
達成すべき目標	本時の目標を理解する	校区の特徴に気付く	校区内で危険な場所とその理由を考 えることができる	校区の特徴を自分の文で表現する
生成物	学習への意欲	・校区内の自然条件から見た特徴の 理解 ・校区の社会的条件から見た特徴の 理解	校区内の危険な場所への気付き	校区の特徴への理解
学習単位	全体			
進め方	前時に完成させた校区地図を確認す る。	・学校からみた方位によって分けた地 域ごとの特徴をノートに書く。 ・自然条件から見た特徴を発表する。 ・社会的条件からみた特徴を発表す る。	・自然条件から危険なところを見つけ る。 ・社会的条件から危険なところを見つ ける。 ・危険な場所にシールを貼る。	本時の学習でわかった特徴をもとに、自 分の学校の校区を紹介する文を書く。
ツール(準備物)	校区地図	校区地図	校区地図 シール	校区地図
場所	教室			

発達段階	小学校中学年(4年)	教科等	社会			
タイトル	安全なくらし 火事を防ぐ - 学校の防災設備を探そう -					
実施日(月日)						
所要時間	5分	15分	10分	10分	5分	
展開	導入	調べる	表す	考える	まとめ	
達成すべき目標	本時の目標を理解する 「学校の防災設備がどこにあるか調べて、どうしてその場所にあるのか考えよう」	場所を分担して防災設備を探ることができる	見取り図を持ち寄って大きな学校見取り図にまとめることができる	防災設備の配置について考えることができる	学校を火災から守るための工夫についてまとめることができる	
生成物	本時の学習目標に対する理解	調査活動に対する意欲	設備の配置に対する関心	消火設備、避難設備の計画的な配置に対する理解	設備の意図的な配置に対する関心	
学習単位	全体	小グループ	全体	全体	全体	
進め方	目標を確認する。	・学校内にある防災設備を確認する。 ・学校の見取り図を持って防災設備を確認し、見取り図に書き込む。 (時間的余裕があれば、消火ホースを出してみ、カバーしている範囲を確認することもできる)	・グループで記入した結果を1枚の大きな見取り図に書き込む。 ・どのような防災設備がどこにあるのか発表する。	・見取り図を見て、防災設備がある場所の特徴をとらえる。 ・なぜ防災設備がそこにあるのか、その理由を考えて発表する。	・学習を基に、学校を火災から守るための工夫を中心に、今日の学習で分かったことをノートに書き込む。	
ツール(準備物)		学校の見取り図(平面図)	学校の見取り図(平面図)	学校の見取り図(平面図)	学校の見取り図(平面図)	
場所	教室	教室・校舎内	教室	教室	教室	

発達段階	小学校中学年(4年)	教科等	社会		
タイトル	119番の通報の仕方を知ろう				
実施日(月日)					
所要時間	5分	5分	15分	10分	10分
展開	導入	考える	表現する	深める	まとめ
達成すべき目標	本時の目標を確認する 「119番の通報の仕方を考えよう」	119番通報のとき、何に気を付ければよいか考えることができる	119番通報の練習を意欲的に取り組むことができる	119番の正しいかけ方に気を付けて消防士の話聞くことができる	正しい119番通報の仕方を理解し、どのようにすればよいか自分なりの見通しをもつことができる
生成物	本時の学習への意欲	119番通報への興味	活動への意欲	正しい119番のかけ方の技能と関心	正しい119番通報への理解
学習単位	全体	全体	小グループ	全体	個人
進め方	・前時の学習内容を思い出し、火事に素早く対応できる通信司令室の役割や関係機関との協力体制など、組織的活動について確かめる。 ・本時の目標を確認する。	・何を伝えればよいか考える。 ・どんなことに気を付けて何を伝えればよいか話し合う。	・実際にグループ内で119番通報をしてみる。 ・友達のかけ方を見て、気の付いたことを発表する。 ・どんなことに気を付けて何を伝えればよいか話し合う。	・よりよい通報の仕方としてグループで気付いたことを発表する。 ・消防士の話聞く。	・119番の正しいかけ方について学習し、分かったことをワークシートに記入する。
ツール(準備物)	前時のノート		電話(模型)	電話(模型) ゲストティーチャー(消防署の方)	ワークシート
場所	教室				

119番に通報すると

月 日

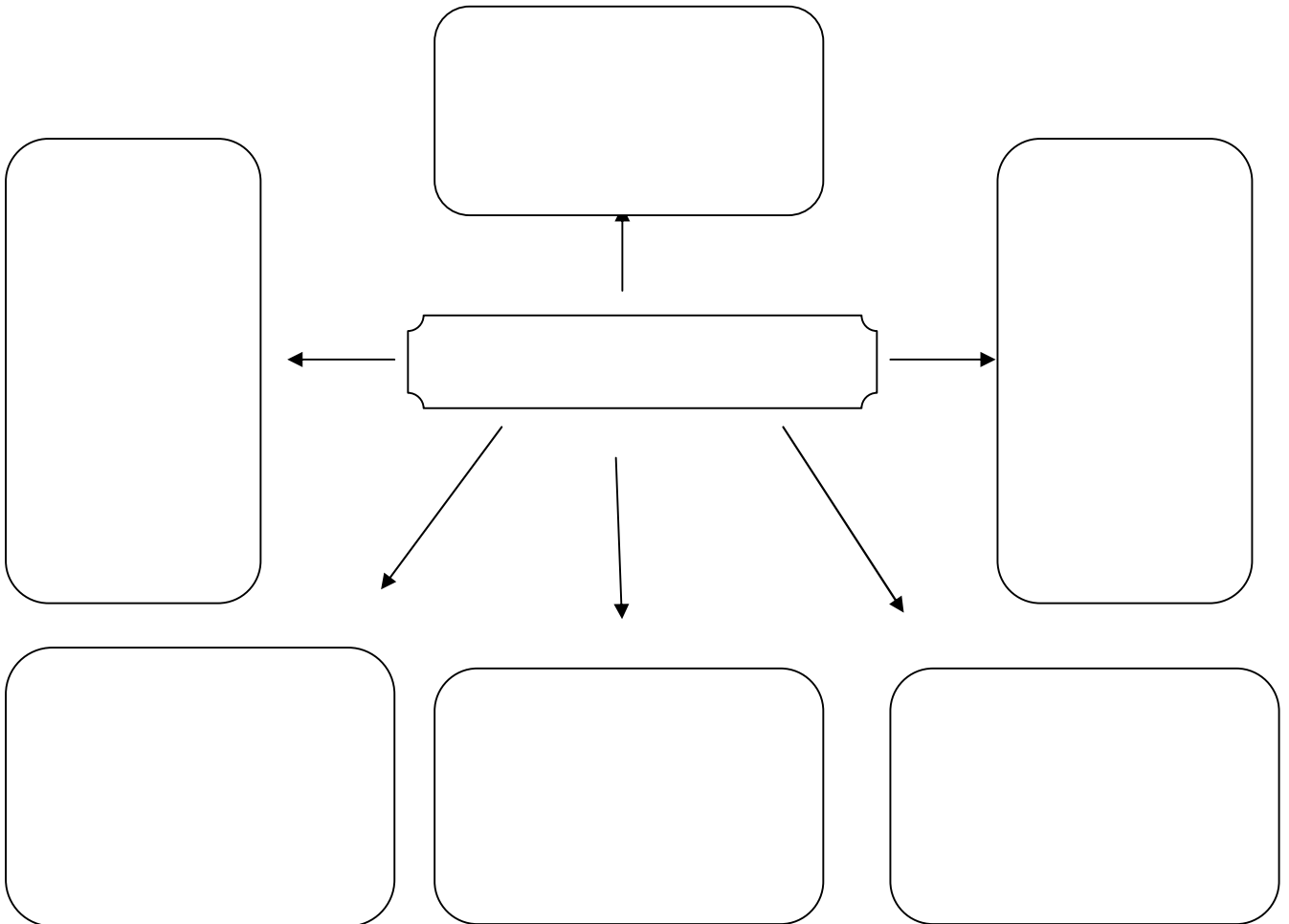
今日の学習のめあて

119番に通報すると・・・

「もしもし、消防署ですか。」

すると

につながります。そこから...



わかったこと

119番にかけるときは・・・ 月 日

今日の学習のめあて

正しい119番の方法

気をつけたこと

友達からのアドバイス

友達へのアドバイス

消防署のおじさんの話から

今日の学習のまとめ

わかったこと

発達段階	小学校中学年	道徳						
タイトル	みんなのために進んで働くことの大切さを学ぼう							
実施日(月日)								
所要時間	5分	5分	20分		10分	5分		
展開	導入	展開(前段)			展開(後段)	終末		
達成すべき目標	地震による被害や震災後の避難所(学校の体育館など)の様子に注目する	資料の内容を理解する	「ぼく」の心の変化を考える	みんなのために働くことが、自分の喜びでもあり、みんなの力にもなることに気付く	災害が起きたとき、自分たちにできることを考える	進んで働くことの大切さを再度確認し合う		
生成物	地震被害やその後の生活への関心	資料の内容の理解	心の変化の気付き	力を合わせて仕事することの喜びや大切さの自覚	進んで働こうとする意欲や態度			
学習単位	全体							
進め方	阪神・淡路大震災での被害の様子や避難所生活の様子を、写真等で見ると。	資料1「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」を読む。	大浜先生の姿や、次々と手伝う大人の姿にどんなことを感じたかを考え、話し合う。	「みんなのため『ぼく』にもできることをしたい」という気持ちになったのはどうしてなのかを考え、話し合う。	「ぼく」たちで決めたことを行ってどんな気持ちになってきたかを考え、話し合う。	「きみたちがいるかぎり、神戸はりっぱに立ち直る」という言葉を聞いて、「ぼく」はどう思ったか考える、話し合う。	いつか身近なところで地震や災害が起これば、人のためにどんなことをすることができるかを考える。	教員の体験話やゲストティーチャーなどの話を聞き、みんなのために自分ができることを進んで行うことの大切さを確かめ合う。
ツール(準備物)	・資料1「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」(道徳教育推進指導資料6 小学校 社会のルールを大切にする心を育てる 文部省) ・阪神・淡路大震災の写真(ホームページで多く紹介されています)							
場所	教室							

神戸のふっこうは、ぼくらの手で

地しんのあったその日、1月17日から、この学校がぼくたちの家になった。ぼくが学校に着いたときには、体育館や教室は、ひなんしてきた人たちでいっぱいになっていた。

「宮本くん、こっちだ。こっちにおいで。」

と、とつぜんぼくをよぶ声がした。向こうで大浜先生が手まねきしている。先生のおかげで、やっと体育館のすみにこしをおろすことができた。寒さの中で、ぼくたちのひなん生活が始まった。

3日目の朝、一大事が起こった。便所に行くと、大便が便器に山もりになっている。ぼくは、とっさに大浜先生をよびに走った。

「大浜先生、来てください。」

便所を見た先生は、すぐにビニールの手ぶくろとごみぶくろを取りにいった。そして手ぶくろをはめ、ごみぶくろにもくもくと、すくっては入れすくっては入れをくり返した。ぼくは、びっくりして大浜先生の様子を見ているだけだった。そのとき、

「先生、すみません。わたしにもやらせてください。」

そう言ったかと思うと、見ていたおとなの人たちが次々と手伝いだした。

このことがあってから、ひなんして来たおとなの人たちは、先生やボランティアの人たちと協力して、ひなん所の仕事を分たんすることになった。ぼくも、水やおべんとうを受け取りに行ったり、自分のいる場所の整理をしたり、できることは自分でするようにした。こうして、数日が過ぎた。

ある朝、外は冷たい雨だった。ふと運動場の食べ物を配るテントを見ると、すみの方に女の子がすわって何かしている。1年生くらいだろうか。よく見ると、牛にゆうびんを温めて配っている。ぼくももらおうと、テントの前にならんだ。女の子は、お母さんからわたされたびんをコンロで少し温め、それをお母さんにわたしている。しばらく待って、ぼくは牛にゆうびんをもらった。とっても温かく感じた。

「ありがとう。」

心をこめて女の子にお礼を言った。女の子は、ぼくを見てにっこり笑い、また、牛にゆうびんを温めだした。

30分ほどして、もう一度、その場所に行ってみた。しずくの飛び散るテントのすみに、まだ、女の子とお母さんのすがたがあった。ぼくは、じっと女の子を見続けた。何もしていないのが、申しわけないような気持ちになってきた。

<ぼくにもできることはあるのだろうか。>

そう考えているとき、小さな子どもの泣きさけぶ声が聞こえてきた。

「泣いちゃだめ。くまのぬいぐるみは、もうないのよ。」と、お母さんが言っている。ぼくははっとした。どこかに熊の絵がかいてある本があったはずだ。ぼくは、必死でさがし、その子の所につけよった。絵を見せてあげると、にこにこした顔になってきた。

<そうだ、これだ。>

ぼくは、さっそく体育館にひなんしている子どもたちと相談した。

「ねえ、小さい子のために、何かできることをしようよ。」

「ぼくもそう思う。」

「本を読んであげたり、紙しばいをしてあげるのはどう。」

「そうね。ほかにも何かできることはないか、みんなで考えようよ。」

こうして、今では夕方になると、図書室は絵本や紙しばいの部屋になり、子どもたちの楽しそうな声が聞こえる。また、お年寄りの世話をする係もできた。手を引いて便所につれていってあげたとき、おばあちゃんは安心したような顔をした。

みんな、いきいきしてきたようだ。大浜先生は、いつもこう言ってはげましてくれる。

「きみたちがいるかぎり、神戸はりっぱに立ち直る。」

(大宮 俊恵)

(道徳教育推進指導資料6「小学校 社会のルールを大切にする心を育てる」文部省より)

発達段階	小学校中学年		教科等	特別活動	
タイトル	火災から自分の命を守ろう				
実施日(月日)					
所要時間	5分	10分	10分	15分	5分
展開	導入	展開			まとめ
達成すべき目標	地震によって大規模な火災が起きることがあることを知る	地震による火災の恐ろしさを理解する	火災に遭遇したときの適切な行動について考える		火災に遭遇したときの適切な行動について考えを深める
生成物	防火意識の向上	児童の火災に対する関心向上	火災遭遇時の適切な行動の理解		火災遭遇時の適切な行動の再確認
学習単位	全体				
進め方	阪神・淡路大震災によって発生した火災のVTRを視聴し、その恐ろしさを知る。	阪神・淡路大震災で起こった火災について資料を参考に、火災の原因について考える。その内容をワークシートに記入する。	火災に遭遇したとき、どんな行動をすればよいか話し合う。 ・通報 ・状況判断 ・身じたく ・避難 等	ワークシートを活用しながら、具体的な場面を設定して火災(地震)に遭遇したときの行動について考え、話し合う。	火災発生時の注意点を再確認する。 ・煙を吸い込まない ・頭部を守る ・指示を守る ・「おかしも」の徹底 ・避難場所の確認 等
ツール(準備物)	・上記の他、火災で被害にあった児童の作文、写真等を効果的に活用する。	ワークシート 資料3		ワークシート	
場所	教室				

火災から自分の命を守ろう

年 組

阪神・淡路大震災で起こった火災について調べよう！

出火件数	件
燃えた建物は？	棟
床面積は？	m ²
表面積は？	m ²
火災で亡くなった人は？	人

火災が起こった原因について考えよう！

.....

.....

.....

火災が起こったどうしたらよいか考えよう！

あなたは公園で遊んでいました。すると近くにけむりが上がっているのを見えました。行ってみると、ごみおき場でごみが燃えていました。あなたはどうしますか。

あなたは家の人とデパートで買い物をしています。地震が起こり大きくゆれました。しばらくすると火災が起こったとの放送があり、けむりが広がってきました。あなたはどうしますか。

火災から自分の命を守ろう

阪神・淡路大震災で起こった火災について調べよう！ (資料2参照)

出火件数	285	件
燃えた建物は？	7483	棟
床面積は？	834663	m ²
表面積は？	1863	m ²
火災で亡くなった人は？	559	人

火災が起こった原因について考えよう！

自由に子どもたちに考えさせたあと、通電火災やガス器具による火災等について説明してあげてください。

.....

.....

火災が起こったどうしたらよいか考えよう！ (様々な場面を想定してください。)

あなたは公園で遊んでいました。すると近くにけむりが上がっているのを見えました。行ってみると、ごみおき場でごみが燃えていました。あなたはどうしますか。

いろいろな状況を設定して、具体的に火災が起こったときの対処法を教えてください。ロールプレイなどを取り入れるのもよいでしょう。

あなたは家の人とデパートで買い物をしています。地震が起こり大きくゆれました。しばらくすると火災が起こったとの放送があり、けむりが広がってきました。あなたはどうしますか。

火災から自分の命を守ろう

1 火災の発生件数は？

* 消防庁「阪神・淡路大震災関連情報データベース」<http://sinsai.fdma.go.jp/search/>

第 4 表 府県別火災発生状況

区 分	兵 庫	大 阪	京 都	奈 良	計
出 火 件 数	251	32	1	1	285件
建 物	228	31	1	1	261
林 野	0	0	0	0	0
車 両	9	0	0	0	9
船 舶	0	0	0	0	0
航 空 機	0	0	0	0	0
そ の 他	14	1	0	0	15
焼 損 棟 数	7,443	37	2	1	7,483棟
全 焼	6,981	1	0	0	6,982
半 焼	82	7	0	0	89
部 分 焼	279	19	1	0	299
ぼ や	101	10	1	1	113
建物焼損床面積	832,151	2,492	20	0	834,663㎡
建物焼損表面積	1,283	580	0	0	1,863㎡

2 被害はどれくらい？

阪神・淡路大震災における火災被害の状況

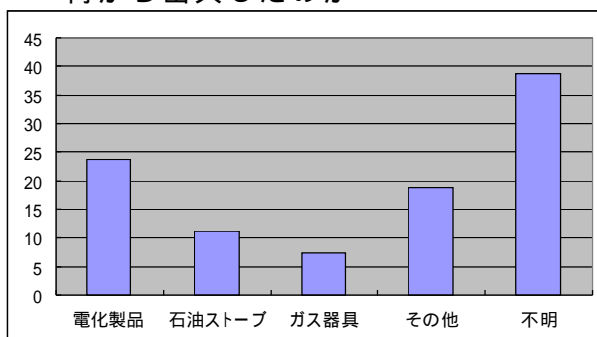
区分	被害状況
死者数	559 人
負傷者数	22 人
り災人員	15,885 人
り災世帯数	9,017 世帯

3 火災はどうして起こったの？

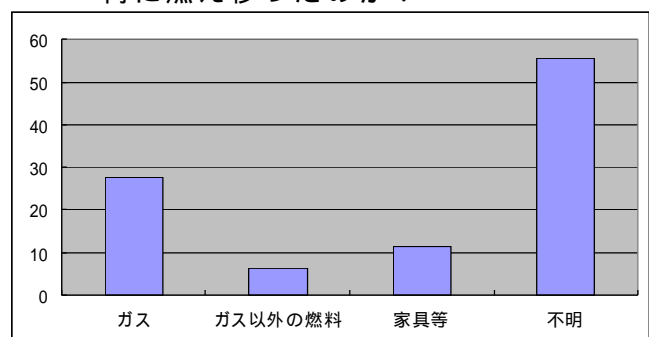
* 阪神・淡路大震災における火災からの教訓（消防研究所）

<http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/shutochokka/7/shiryou1.pdf>

何から出火したのか



何に燃え移ったのか？



発達段階	小学校中学年	教科等	特別活動				
タイトル	大きな地震(揺れ)を体験しよう						
実施日(月日)							
所要時間	事前準備	5分	20分	5分	10分	5分	
展開		導入	起震車体験	記録	話し合い	まとめ	
達成すべき目標	・体験学習の前に事前に消防署の方と打ち合わせを行い、学習が効果的に、スムーズに進むよう計画する。 ・起震車の設置場所、消防署の方の人数と役割等を確認する。 ・疑似体験の内容、グループ分け、進め方等を決める。	本時の目標を理解する	起震車で大きな地震(揺れ)の体験をして、大地震の恐ろしさを知る	大地震の恐ろしさ確かめる	大地震が起きたときの避難行動を考える	自分たちで考えたことや教えていただいたことから避難行動を確かめ、安全に行動できるようにする	
生成物		体験学習への意欲	危険性をイメージする力	恐怖心をおさえ、冷静な避難行動に結び付ける態度	避難行動について考え、落ち着いて適切に対応できる態度	適切に対応できる態度	
学習単位		全体	グループ	各自	全体	全体	
進め方		私たちの暮らしを守っている消防署の方の話聞き、起震車の体験を通して地震についての学習を行うことを知る。	注意を確認したあと、グループに分かれて順に起震車に乗り、大きな地震(揺れ)を体験する。	体験して感じたこと・考えたことをワークシートに記録する。	大地震が起きたときの行動を考える。 ・学校で地震が起きたとき ・家で地震が起きたとき 避難訓練の時のことを想像し、どのように行動すれば安全かを考える。	消防署の方の講評を聞き、今後の防災に対する参考とする。	
ツール(準備物)		ワークシート・起震車・消防署の方					
場所		消防署(または防災センター) 運動場(地震体験を起震装置で学習するときは防災センター)					

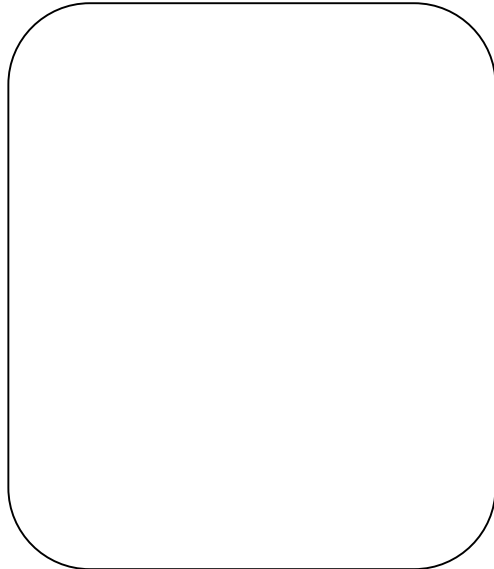
ワークシート

大きな地しんを体験しよう	
小学校	年 名前
地しん体験をして、感じたことや考えたことは何でしょう？	
大きな地しんがおきたときの行動を考えましょう。 [学校で] [家で]	
消防署の方のお話を書きましょう。 (しつ問があれば、それも書いておきましょう)	

発達段階	小学校高学年(6年)	教科等	理 科			
タイトル	地震による大地の変化(地震による被害を知ろう)					
実施日(月日)						
所要時間	事前準備	10分	15分	45分	10分	20分
展開		導入	展開			まとめ
達成すべき目標	地震や火山の噴火によって起こる大地の変化を示す資料を参考にして、「地震」か「火山の噴火」の2つのグループに分かれて調べる。	地震によって、どんな被害が起こるか考える	地震による被害について知る		地震による被害を軽減させる方法を知る	地震の被害やその対処法等を積極的にいろいろな人に啓発する
生成物		地震による被害に対する関心	地震による被害の理解		地震による被害軽減方法の理解	・地震に対する危機意識 ・メッセージのワークシート
学習単位		地震グループ全体	小グループ	小グループ	小グループ	個人
進め方		地震によってどんな被害が起こるか知っていることを話し合う。	被害の種類によって、小グループに分かれ、どうやって調べたらよいか話し合う。 ・建物の倒壊 ・火災 ・地滑り ・津波 等	小グループに分かれて、地震による被害の様子について、インターネット・参考図書・ゲストティーチャー等を活用して調べる。	調べたことをもとに、地震によって起こる被害を少なくするためには、どうすればよいか話し合う。	みんなに啓発するためのメッセージを書き、掲示する。
ツール(準備物)				・インターネット ・参考図書 ・ゲストティーチャー		・ワークシート
場所		教室等	教室			

小学校 6年	防災メッセージ	発行者	
		発行日	年 月 日()

もし地震が起こったらこんな被害が.....



被害イメージ図

.....

.....

.....

.....

.....

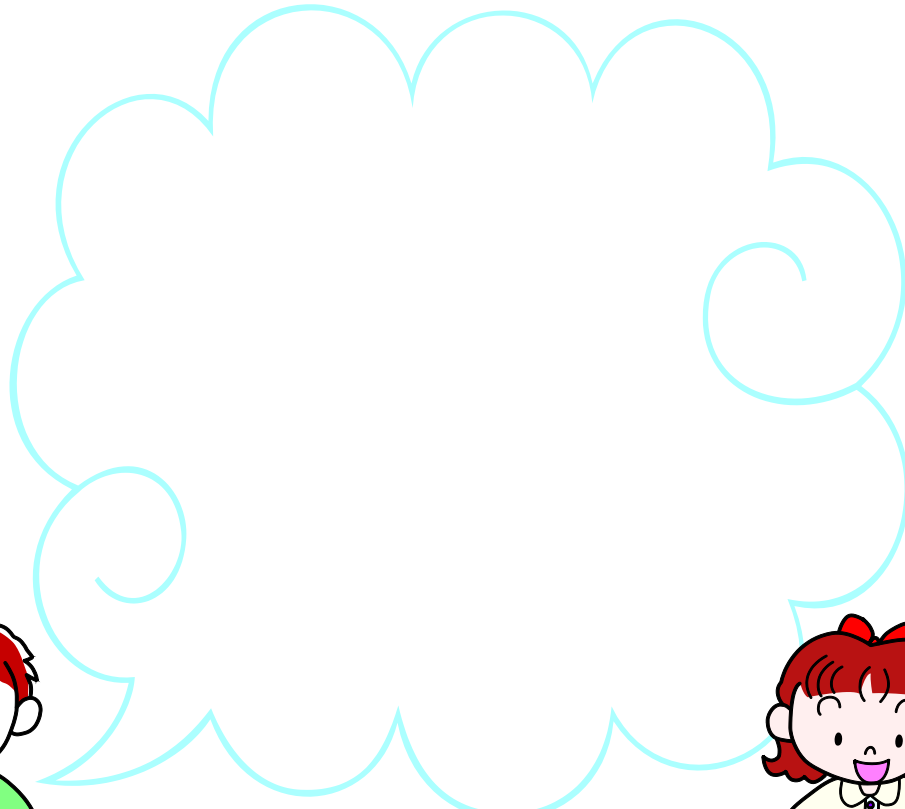
.....

.....

.....

.....

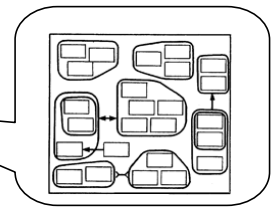
私の防災メッセージ



発達段階	小学校高学年(5年)	教科等	体育(保健)			
タイトル	学校や地域でのけがを防ごう 【「けがの防止」より3 / 4】					
実施日						
所要時間	5分	10分	15分	10分	5分	授業後
展開	導入	話し合い1	話し合い2	話し合い3	まとめ	
達成すべき目標	本時の目標を理解する	学校や地域にどんな危険が潜んでいるか知り、それに対する対応方法を知る			けがの防止や災害に備える意欲をもつ	・感想文等により学習の内容理解の確認
生成物	学校や地域でのけがを防ごうという意欲	身の回りのかくれた危険の認識	学校の危険箇所の確認と危険回避への心構え	地域の危険箇所の確認と危険回避への心構え	今後の生活でけがの防止や災害に備える意欲	
学習単位	全体	全体活動	グループ 全体	全体	全体	
進め方	前時の復習をする。 (けがの原因は「人の行動」と「周りの環境」)	教科書(又は資料)の図について、かくれた危険を探す。 ・学校の廊下 ・校庭 ・地域の歩道 ・地域の商店街 予想される事故とその原因を考える。 どんなときに危険が増すか考える。 ・朝夕の混雑時 ・みんながあわてている時 ・火事や地震の時	資料をもとに危険箇所を探す。 火事や地震の時はどのように行動したらよいか話し合う。 各グループの話し合いをまとめる。 発表する。 学校で工夫していることを聞く。	地域の絵地図を見て危険な場所を探す。 各場所でけがを防止するために気を付けたらよいことを出し合う。 けがの防止のために地域で工夫・努力していることを知る。 ・安全点検 ・危険箇所の修理 ・危険箇所の掲示 ・避難場所	けがの防止や災害に備えて気を付けていきたいことを話し合う。	
ツール(準備物)		教科書(又は資料)	教科書等の図		校舎の避難経路の図	
場所	教室					

発達段階	小学校高学年(5年)	教科等	体育(保健)			
タイトル	けがの手当て、できるかな? 【「けがの防止」より4 / 4】					
実施日						
所要時間	5分	10分	10分	15分	5分	授業後
展開	導入	話し合い・実習	話し合い	実習	まとめ	
達成すべき目標	本時の目標を理解する	けが人が出た時の対処の仕方を知る	簡単なけがの手当ての仕方を知る	簡単なけがの手当ての仕方を練習する	けが人を助けたり簡単な応急手当に対する意欲をもつ	教科書等により学習の内容理解の確認する。
生成物	学校や地域でけが人が出た時の応急手当への関心	けが人を発見した時の判断の仕方(手順)の理解	簡単なけがの手当ての仕方の理解	簡単なけがの手当ての仕方の習得	応急手当やけが人救助への意欲	
学習単位	全体	全体 2人組	全体	グループ	全体	
進め方	学校でおこりやすいけがについて考える。 本時の学習内容を知る。	けが人が出た時、まずどうすればいいか話し合う。 観察、判断 ・周りの状況 ・けがの種類や程度 ・協力者の有無 通報の仕方 大きなけがの場合どうするか聞く。 2人組になって救急時の通報(電話)の仕方を練習する。	簡単なけがの手当ての仕方を知る。 ・すりきず ・やけど ・きりきず ・ねんざ、打ぼく ・つき指 ・鼻血 その他 血液の始末の仕方 熱中症等への注意	簡単なけがの手当ての仕方を練習する。 ・すりきず ・やけど ・きりきず ・ねんざ、打ぼく ・つき指 ・鼻血	学習のまとめをする。	
ツール(準備物)	教科書 (またはワークシート)					
場所	教室					

発達段階	小学校高学年		教科等	特別活動
タイトル	安全な避難の仕方を考えよう！			
実施日(月日)				
所要時間	5分	15分	20分	5分
展開	導入	展開	展開	まとめ
達成すべき目標	本時の課題を知り、安全な避難のために大切なことを考える	グループになり、他の人の考えも取り入れ、自分の考えを深める	他のグループの考えも取り入れ、避難のときに大事なことをまとめる	地震に伴った火災発生時の際、みんなで協力し、安全に避難することの大切さを知る
生成物	・避難のときに大切なことを書き込んだカード(1人5枚) ・本時の学習内容の理解	・避難時の対応についての理解の深化 ・グループごとの報告資料		安全に避難するスキル
学習単位	全体	グループ	全体	全体
進め方	<p>本時の課題を知り、自分の考えをつくる。</p> <p><課題> 教室での学習中に地震が起こり、それが原因で職員室のストーブが倒れ火災が発生しました。安全に避難するにはどのようなことが大切でしょうか。</p> <p>地震に伴う火災が起こったときに、安全に避難する上で大切なことを考え、5枚のカードに書く。 (5つ考えが見つからないときは、特に大切だと思うことを複数のカードに書いてもよいと助言する)</p>	<p>安全な避難の仕方について話し合う(1) グループに分かれ避難のときに大切なことを話し合う。 全員のカードを集め、トランプのように繰り、1人に3枚ずつ配り、残りは中央に積む。 順番を決め、1人ずつ、中央に積んだカードを1枚とり、4枚になったカードから大切だと思うもの3つを選び、残りの1枚を裏向けて中央でのカードの近くに出す。(3巡する)(中央に積んだカードが無くなったら、前に出ているカードを繰り、中央に積む) 自分が最後まで残したカードについて、なぜそれを選んだのか、その理由を一人ずつグループのみんなに報告する。(自分の報告を気にしてグループのみんなの報告が聞けなくならないように、事前に報告の準備をする時間を設ける) 選んだカードをテーブルに並べ、共通するカードごとになかま分けし、模造紙に貼る。(時間があれば、選ばれなかったカードも貼っていく) まとまりごとに線で囲み、名称を付けたり、関連するまとまりを線でつないだりする。(グループで考えをまとめる。発表者を決める。)</p>	<p>安全な避難の仕方について話し合う(2) グループで話し合ったことを出し合い、学級としてのまとめをする。 グループごとに、自分たちで作った模造紙の掲示物をもとにして、安全な避難の仕方について発表する。 他のグループの発表を聞き、自分たちの考えと比べたり、意見を交流したりする。 掲示物を黒板に貼り、学級としての考えをまとめる。 (みんなで協力して避難すること、困っている人がいたら支え合うことなど、協力して避難することの大切さを書いているものがあれば、その場で評価したり、まとめの時に取り上げたりする) (時間が足りないときは、2～3のグループごとに発表会を行い、それぞれで考えをまとめる)</p>	<p>学習のまとめをする。 感想を出し合う。 教員のまとめを聞く。</p>
ツール(準備物)	カード(記入用紙。一人5枚ずつ)、模造紙(各グループに半分ずつ)、のり(カードを模造紙に貼るときに使用)、水性ペン(各グループ数本ずつ。模造紙にコメントを記入したり、同じなかまのカードを囲んだりするのに使用)			
場所	教室			



発達段階	小学校高学年	教科等	特別活動(学年による活動)			
タイトル	地域の危険箇所を知ろう！					
実施日(月日)						
所要時間	事前学習	課外学習	5分	20分	15分	5分
展開			導入	展開		まとめ
達成すべき目標	・過去の地震の屋外での被害について、VTR等を視聴し、感想を話し合う。 ・地震が起きたときの屋外での危険性について資料をもとに話し合う。 ・ブロック塀の倒壊 ・自販機の転倒 ・がけ崩れ 等	家族で地域の危険箇所について共有する	地域の危険箇所を知っておくことの大切さを知る	地域の危険箇所について知る		校区にもいろいろな危険があることを知り、防災意識を高める
生成物		地域の危険箇所に関する関心	地域の危険箇所認知の重要性の理解	自宅近くの危険箇所の確認	校区の危険箇所の把握(防災マップ)	校区の危険に関する理解
学習単位		家族	学年全体	通学地域別グループ	学年全体	学年全体
進め方		地域の危険箇所について、家族で話し合い、ワークシートに記入する。	これまでの学習を振り返りながら、本時の活動の流れを理解する。	通学地域によりグループに分かれて、自宅近くの危険性について話し合い、地図の中に、危険な場所を書き入れる。 *地震時に限定するのではなく、交通事情等一般的な危険箇所について話し合わせた方がより実際的なものになる。	各通学地域別グループごとに、地域の危険な場所を記した地図を掲示しながら、危険箇所について発表する。	本時の学習を振り返りながら、ワークシートに記入し、感想を交流する。
ツール(準備物)		ワークシート		白地図 油性ペン等		ワークシート(ふりかえりカード)
場所	教室	家庭	体育館等			

本学習指導案は、学級を解体した、通学地域別の児童集団を対象としている。
 また、本学習で作成した各地域の危険箇所を記した地図をつなぎ合わせると、防災マップを作ることができる。
 一度作成しておく、次年度以降はそのマップに修正を加えていくことで、より実際的な防災マップになる。

地域の危険な場所について、家族の人と話し合おう！

月 日()

年 組

地震が起こると、ブロックべいが倒れてきたり、がけくずれが起こったりすることを勉強しました。私たちの住んでいる地域は、だいじょうぶでしょうか。家の近くで危険なところはないか、家族の人と話し合しましょう。

まず、自分の家の近くの地図を書こう！

学級で学習したことを参考にして、どんなところが危ないか、家族の人に説明しよう！そして、家の近くに危ないところはないか話し合っ、書きましよう。

で話し合った危ないところを、上の地図に書き入れよう！

話し合っ、思ったことを書こう！

.....

.....

.....

ふりかえりカード

月 日 ()	
年 組 名前	
学習内容	
分かったこと	
思ったこと	

発達段階	小学校高学年	教科等	特別活動			
タイトル	危険箇所や避難所を記した防災マップを作り、災害に備えよう					
実施日(月日)						
所要時間	10分	10分	10分	5分	5分	5分
展開	導入	展開				まとめ
達成すべき目標	地震災害に対する関心や課題意識を高める	地震発生時に危険なものについて考える	地震発生時の地域の危険箇所を互いに確認し合い、避難ルートを考える			家族との話し合いに積極的に参加できるよう、防災意識を高める
生成物	災害に対する関心	地震発生時の危険物の理解	地域の危険箇所の共有	地域の避難所の確認	複数の避難ルートの確認	積極的な防災意識
学習単位	全体	全体	全体・個人	個人	個人	全体
進め方	阪神・淡路大震災や中越地震による被害にあった町のビデオを見て、災害に備えることの大切さを感じる。	町の中にある様々な場所が地震発生時には危険なものとなる可能性があることについて理解する。例えば、自動販売機、塀、切り立ったがけ、大きな建造物など。なお、特定の個人の家などに話し合いの中心が向くことのないようにすること。	事前に、各自が登下校時に調べたり、家で聞いてきた、地震が発生した場合の地域の危険箇所や避難所について発表し、記入する。 校区地図に地震で被害の起こりそうな危険箇所(赤色)を記入する。	自宅(茶色)、避難所(緑色)を記入する。	自宅からの避難ルート(青色)を記入する。	本時の学習で使った防災マップをもとに、家庭においては、災害時の家族の連絡手段や集合場所などを話し合っておく必要のあることを理解し、その意欲を高める。
ツール(準備物)	校区地図(配布用) 掲示用校区地図 震災時の写真					防災マップ
場所	教室					

発達段階	小学校高学年	教科等	総合的な学習の時間						
タイトル	地震が来たらどうする！ - 地震災害やそれに対する備えを考えよう -								
実施日(月日)									
所要時間	1時間	1時間	1時間	1時間	1時間	4時間	4時間	3時間	2時間
展開	導入(体験)			計画	中間発表	調査	まとめ	発表	振り返り
達成すべき目標	地震とその被害の予想から、備えに対する関心や課題意識を高める	2つの活動を通して「災害の大変さ」「備えの大切さ」について考え、課題形成を図る	調べたい課題を明確にする ・児童の疑問や課題をもとにしたグループを編成する	課題に対しての調査方法を明確にする	グループの調査内容と調査方法を分かりやすく伝える	家族、地域の人、役場や警察の人に聞いたり、図書館・インターネットで調べたり、町中を歩いたりするなど工夫して調査する	発表に向け、調査した内容を工夫しながらまとめる	グループで調べ、まとめたことを学級のみんなに分かりやすく伝える	学習を通して分かったことや身に付いたこと、これからの自分たちにできることを考える
生成物	地震災害やその備えに対する関心や課題意識の高まり	・疑似体験への意欲 ・課題設定に向けた関心や意欲	課題設定の明確化と解決に向けての意欲	課題解決への方向付けと意識化	各グループの計画と調査方法の共通理解	・課題を追求する力 ・人間関係力	情報を活用する力	表現する力	・自分の学習や生き方への振り返り ・自分に出来る災害に対する備えの大切さの再確認と行動化への意欲
学習単位	全体	全体・グループ	全体・グループ	グループ	全体・グループ	グループ	グループ	全体・グループ	全体
進め方	・ゲストティーチャーから地震が起こったときの被害やその後の生活の様子について話を聞く。 ・避難所での様子をビデオや写真で見て、備えについて話し合う	避難所の疑似体験として、水を出なくしたトイレに、プールの水を汲んできて使えるようにする。 ハイゼックスのご飯かアルファ米、非常食のキャンパスクッキーの試食をする。 2つの活動について感想を出し合う。	疑似体験から、地震のことやその災害、防災施設や設備・グッズと関連づけ、災害と災害に対する備えについての関心を高め、課題設定を行う。疑問や課題をもとにグループ分けを行う。 <予想される課題> ・地震について調べよう ・危険な場所を調べよう ・非常時の備え(防災グッズ)について調べよう ・避難方法について調べよう ・避難所の生活を考えよう ・ボランティアについて調べよう等	グループの調査内容と調査方法について考え、自分たちのグループの計画を画用紙にまとめる。 <予想される調査方法> ・家族に聞く ・地域の人に聞く ・役場や警察の人に聞く ・図書室で調べる ・インターネットで調べる ・校区内を歩いて調べる等	グループの調査内容と調査方法について、学級の他のグループに伝え、アドバイスをし合う。	調査方法にそって、実際の調査を行う。	工夫してまとめる。	グループで調査し、工夫してまとめたことを発表する。 (発表練習2時間) ゲストティーチャー(消防署員や地域防災課の職員など、防災にかかわる仕事をしておられる方)や保護者などに対する発表会を計画するのよい。その場合は、あらかじめ、だれに対して発表をするのかを子どもたちに伝えておくことが大切である。	・学習を振り返り、分かったことや身に付いたことを考え、交流し合う。 ・これからの自分たちにできることを考え、交流し合う。
ツール(準備物)	地震災害の様子や避難所の写真、ビデオ等	バケツ・ハイゼックス・米・アルファ米・キャンパス・非常食のクッキー	ワークシート(自分の課題を明確にするために記入)	画用紙			コンピュータ・模造紙・画用紙・デジカメ・ビデオ等	デジカメ・ビデオ・コンピュータ等	振り返りシート等
場所	教室	教室・プール・トイレ	教室	教室	教室	教室・図書館・コンピュータ室・校区内	教室・コンピュータ室	教室	体育館

【いろいろな非常食】



非常食用ハイゼックス



作り方



アルファ米



作り方 (<http://www.onishifoods.com/alpha1.html>)



カンパン



クッキー

発達段階	小学校高学年	教科等	総合的な学習の時間		
タイトル	一人一人が大切にされるまちづくりをめざして - わたしたちのまちの防災点検をしよう -				
実施日(月日)					
所要時間	1時間	1時間	3時間	2時間	3時間
展開	導入	計画	調査・まとめ	発表	振り返り
達成すべき目標	地震災害による危険性について関心と課題意識を高める	自分たちの住む地域の防災について調べた課題を設定する	・自分たちの住む地域の防災について主体的に調べる ・高齢者や傷病者、障害のある人、乳幼児といった災害弱者の視点で地震災害や防災について考える	・自分たちの住む地域の防災について調べたことを、他のグループに対して分かりやすく伝える ・地震に備えるためには、災害弱者の視点に立って考えるとともに、互いが協力し合うことの大切さに気付く	・学習を通して分かったことや考えたことについて振り返り、交流する ・地域社会の一員として、地域の防災に関心を持ち、自分にできることをしようとする意欲を高める
生成物	地震災害による危険性についての関心と課題意識の高揚	課題設定に向けた関心や意欲	地震災害のための様々な防災の取組について主体的に調べようとする意欲・態度	地震災害の恐ろしさ、災害下における人と人とのつながりの大切さの理解	地域社会の防災体制に対する関心や地域社会の一員としての防災意識
学習単位	全体	グループ	全体・グループ(調査)	グループ(発表)・全体	全体
進め方	1 地震に遭遇したときの経験について出し合う。 2 阪神・淡路大震災の被害の様子のVTRを視聴し、感想を出し合う。	自分たちの住む地域の防災について調べ、グループ同士で発表し合うことで、防災意識を高めるという課題を設定する。 (例) 避難場所について 備蓄について 病院等の救急施設について 避難案内経路について	1 各グループで決定した調査課題について計画的に調べる。 児童に調べさせたいポイント ・二次災害の恐ろしさ ・災害時には、高齢者、傷病者、障害者、乳幼児などの災害対応能力の低い人々の犠牲が多いこと ・災害時における人と人とのつながりの大切さなど 2 工夫をしながら発表の準備をする。	1 各グループごとに発表する。 2 各グループからの発表内容について感想を出し合う。 児童に考えさせたいポイント ・自分たちの住むまちは、防災に対してどのような備えがあるのだろうか。 ・「災害弱者」と言われる人々への対応はどのようになっているのだろうか。 ・自分たちにできることはどんなことだろうか。 消防署の方や自治体の防災担当の方をゲストティーチャーとして迎え、子どもたちの発表に対して感想を言っていたくのも大変効果的である。	1 学習を振り返り、分かったことや考えたこと、これからの生活に生かしていきたいこと、自分にできることは何かを振り返ったり、交流し合ったりする。 2 内容によっては、消防署の方や自治体の防災担当の方に子どもたちからの提案や願いを伝える機会を設けることも考えられる。 3 地域社会の防災体制に対する関心や地域社会の一員としての防災意識を高める。
ツール(準備物)	VTR(阪神大震災の映像資料)		調査に必要なコンピュータや資料等	発表に必要な機材等	振り返りシート等
場所	視聴覚教室	教室等	教室等	視聴覚教室	教室等